

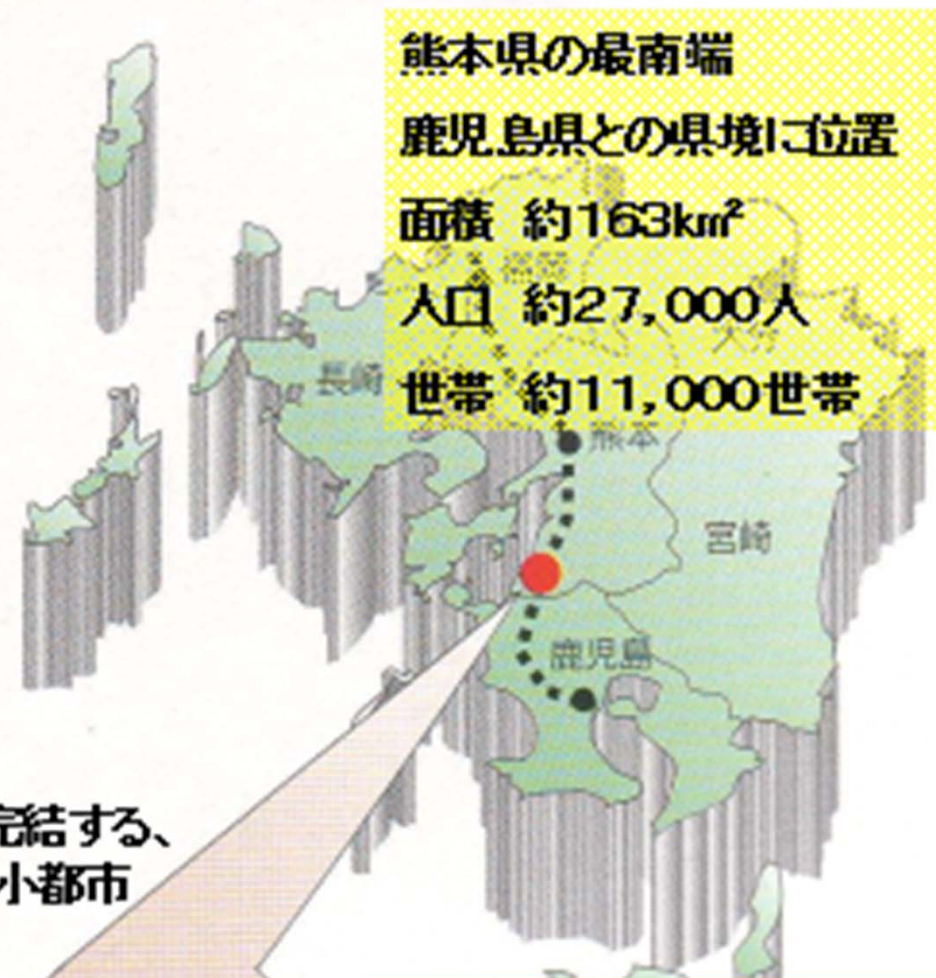
水俣市 環境未来都市構想

ぬくもりのある日本の再生モデル
「環境首都 水俣」

参考資料



水俣市の概要

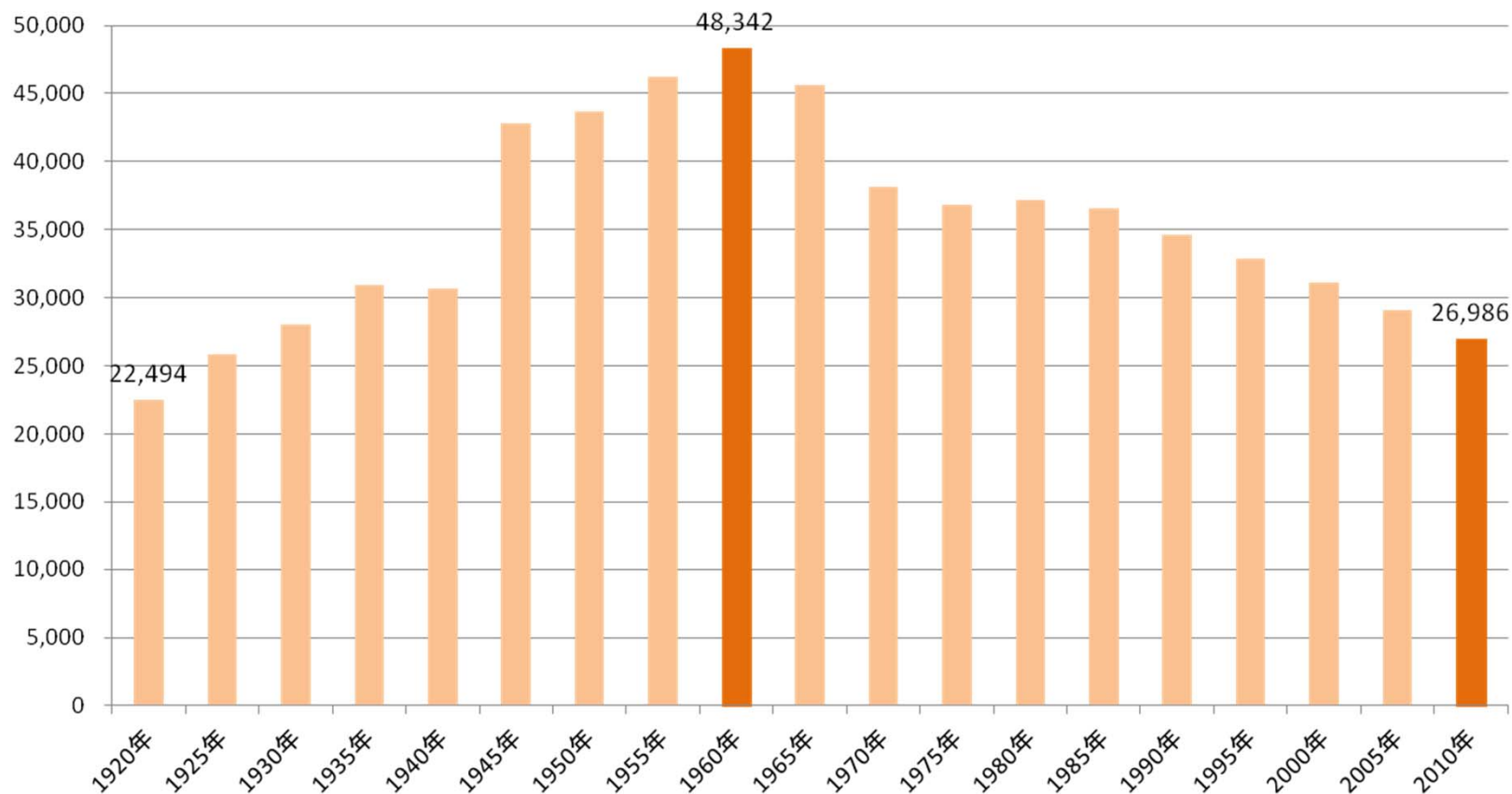


水俣



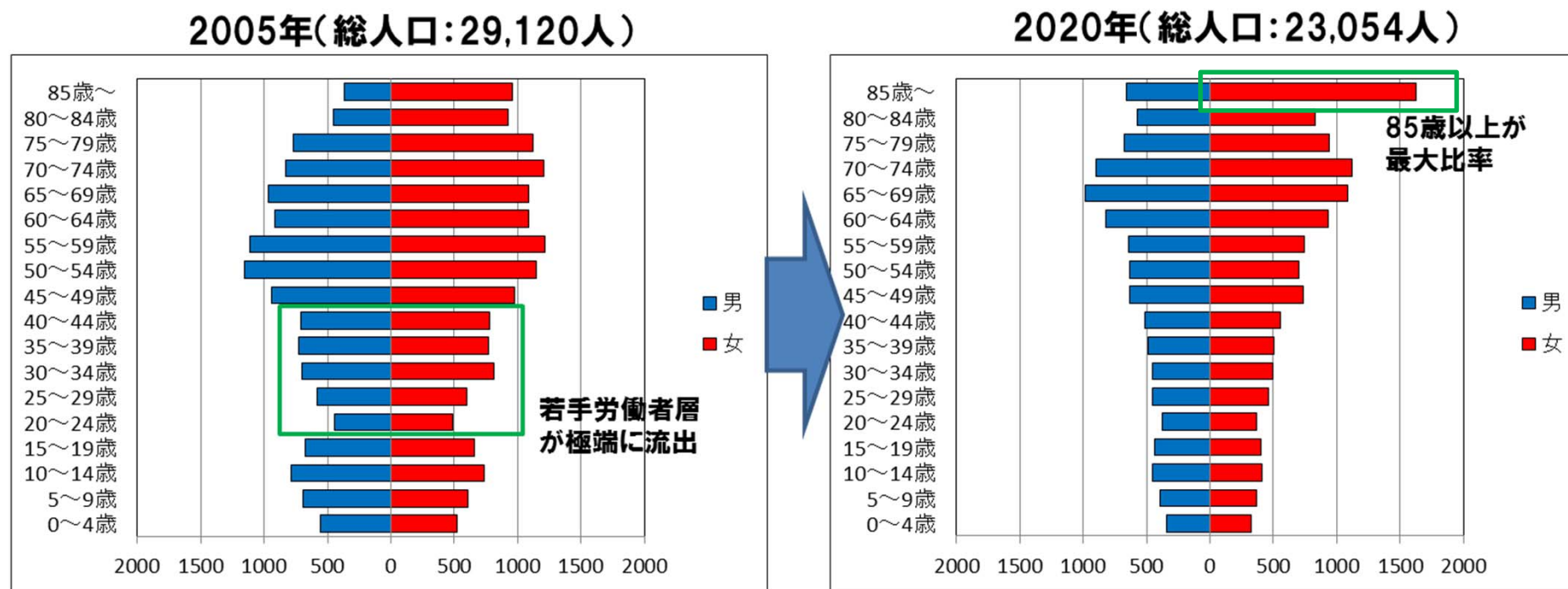
人口の推移

水俣市人口(国勢調査)



- 国勢調査人口：1960年をピークに約44%減

人口構成の現状と将来予測

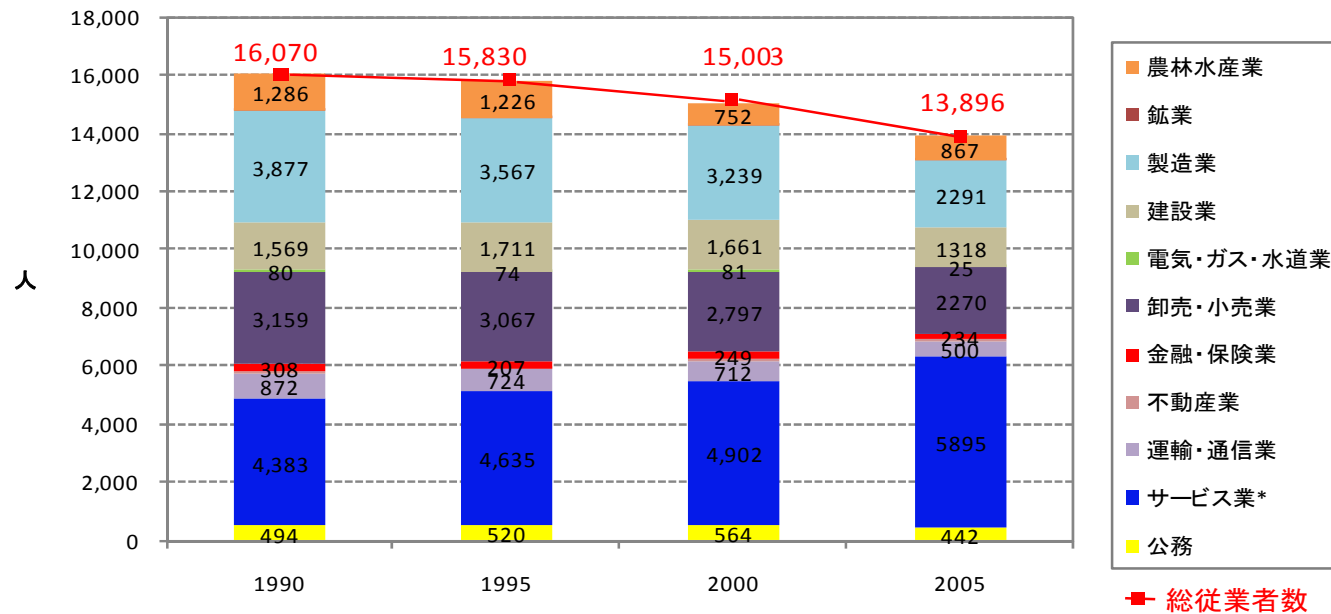


出所:『日本の市区町村別将来推計人口』(平成20年12月推計)－市区町村別男女5歳階級別推計人口、人口問題研究所

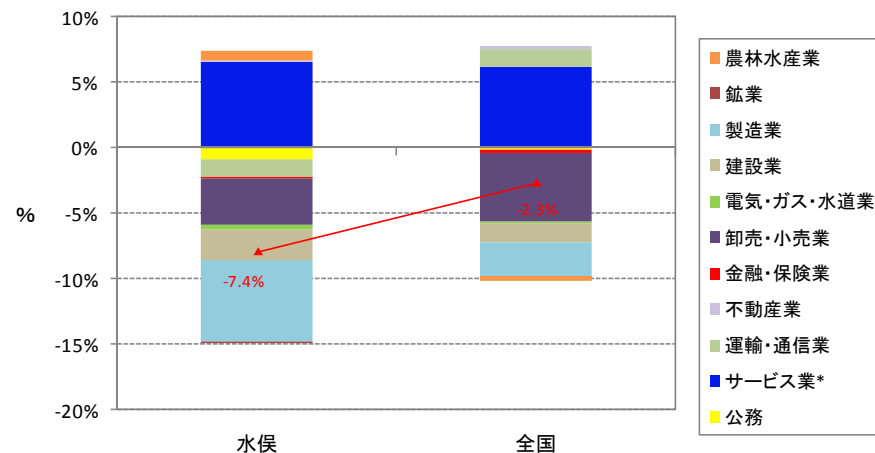
- 若手労働者層の流出が激しく、生産年齢人口比率が低い
- 超高齢化がさらに加速(2005年30% → 2020年40%超)
- 2020年には、女性の85歳以上が最大比率に

産業別の就業者数

水俣の産業別の就業者数



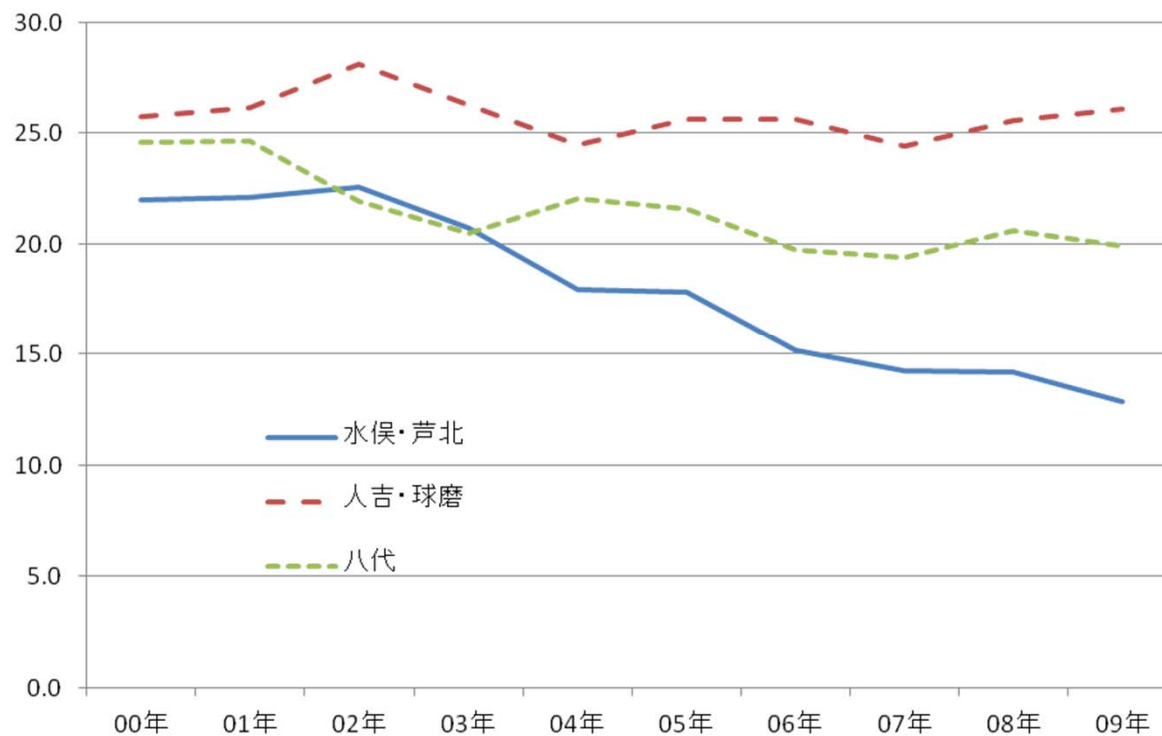
就業者数の増減(2000-2005)の寄与度



- 近年、製造業の就業者が大幅減少
- 他方、サービス業(医療・福祉等)が大幅に伸び

観光客数の推移

地域別宿泊客数の推移(万人)



平成21年熊本県観光統計表から作成

- 水俣・芦北地域の宿泊数は、10年間で半減
- 県内の人吉・球磨地域、八代地域と比べても大幅減少

水俣の現状・課題

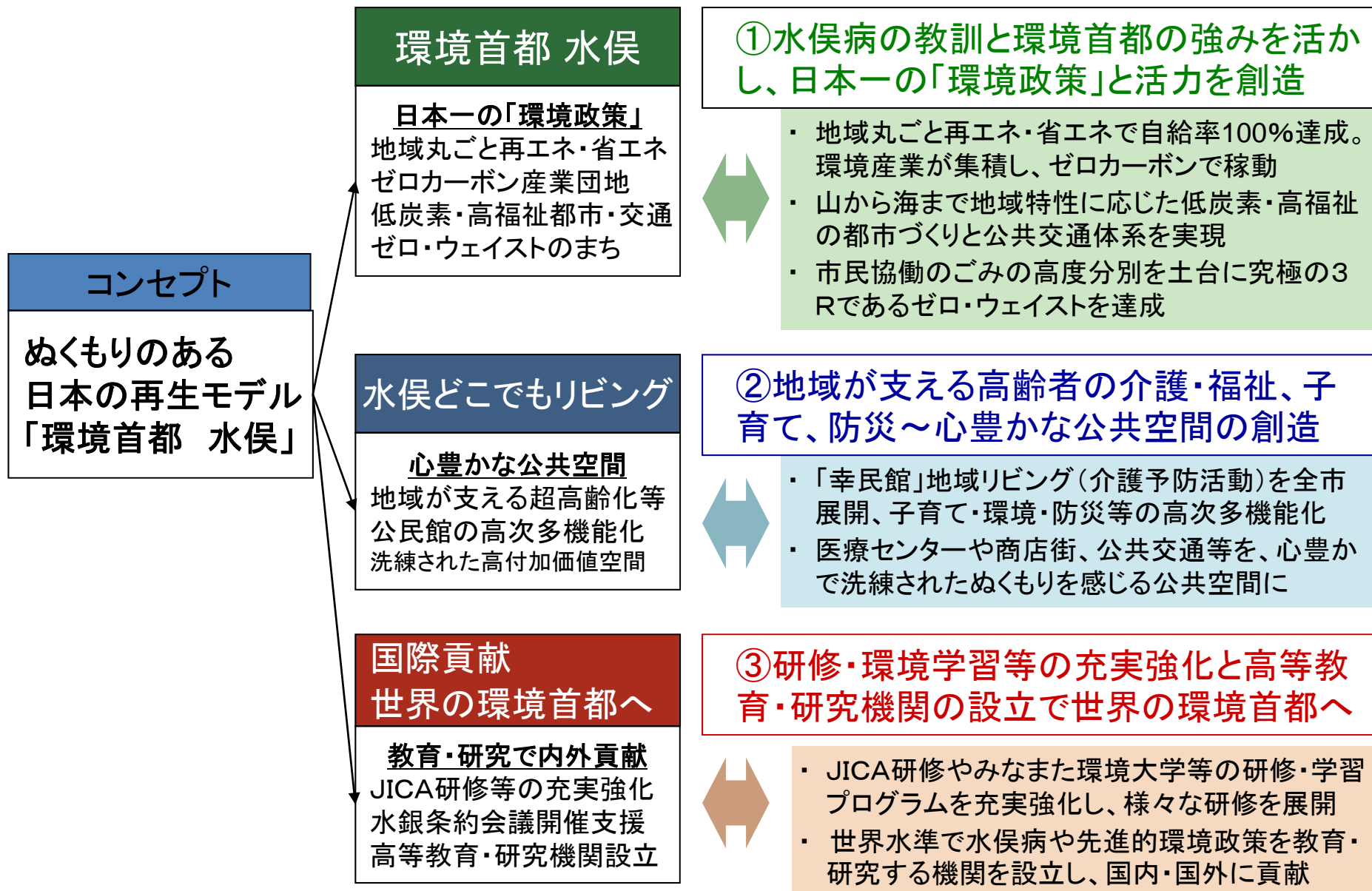
水俣市は、日本の各地域の課題を数多く抱える「日本の縮図」

- 人口減少
 - 最盛期5万人から現在2万7千人(2010年国調)
 - 中心部から周辺へスプロール化
- 高齢化率、障がい者率
 - 熊本県下最高の34%(水俣・芦北地域)、障がい者比率も県下最高の約1割
- 経済の長期低迷
 - 年間商品販売額は減少傾向、域外への消費流出、中心市街地の競争力低下
 - 有効求人倍率は、県下最低水準を推移
 - 観光客(宿泊)は10年間で半減
 - 金融機関預貸率は、県下最悪の2~3割(各水俣支店)
- 公害による地域社会の疲弊
 - 水俣病問題は発生後半世紀以上を経ても未解決
 - 地域の連帯回復は「もやい直し」が進むも、未だに残る差別・偏見、風評被害

水俣の強み・特性（再生モデルの源泉）

- 水俣川の源流から河口までひとつの市域に包含され、海・山・川の生態系、温泉などを有し、多様性に富んだ自然環境。
- 水俣病の経験に基づき、我が国で先駆けて環境のまちづくりを市民協働で行い、市民に高い環境意識が共有されている。
- 水俣病や環境に関する官民の研究・教育施設が集積、JICA研修や「みなまた環境大学」などキャンパスのない大学として環境学習・国際貢献に一定の成果を上げている。
- エコタウン企業7社を中心にリサイクル関連企業が集積し、世界的な技術力を有するJNC(株)(チッソ)が立地している。
- 山から海までの多様な自然環境があり、JNC(株)保有の水力発電など、豊富な再生可能エネルギー資源が存在している。
- 総合医療センターを中心に、医療・福祉施設が充実・整備され、市外からの外貨獲得・集客拠点として、超高齢化社会の進展に対応可能。
- ふれあい活動(安否確認訪問)から発展した公民館の「地域リビング」は、地域の介護予防や社会参加推進の「地参地笑」拠点となっている。

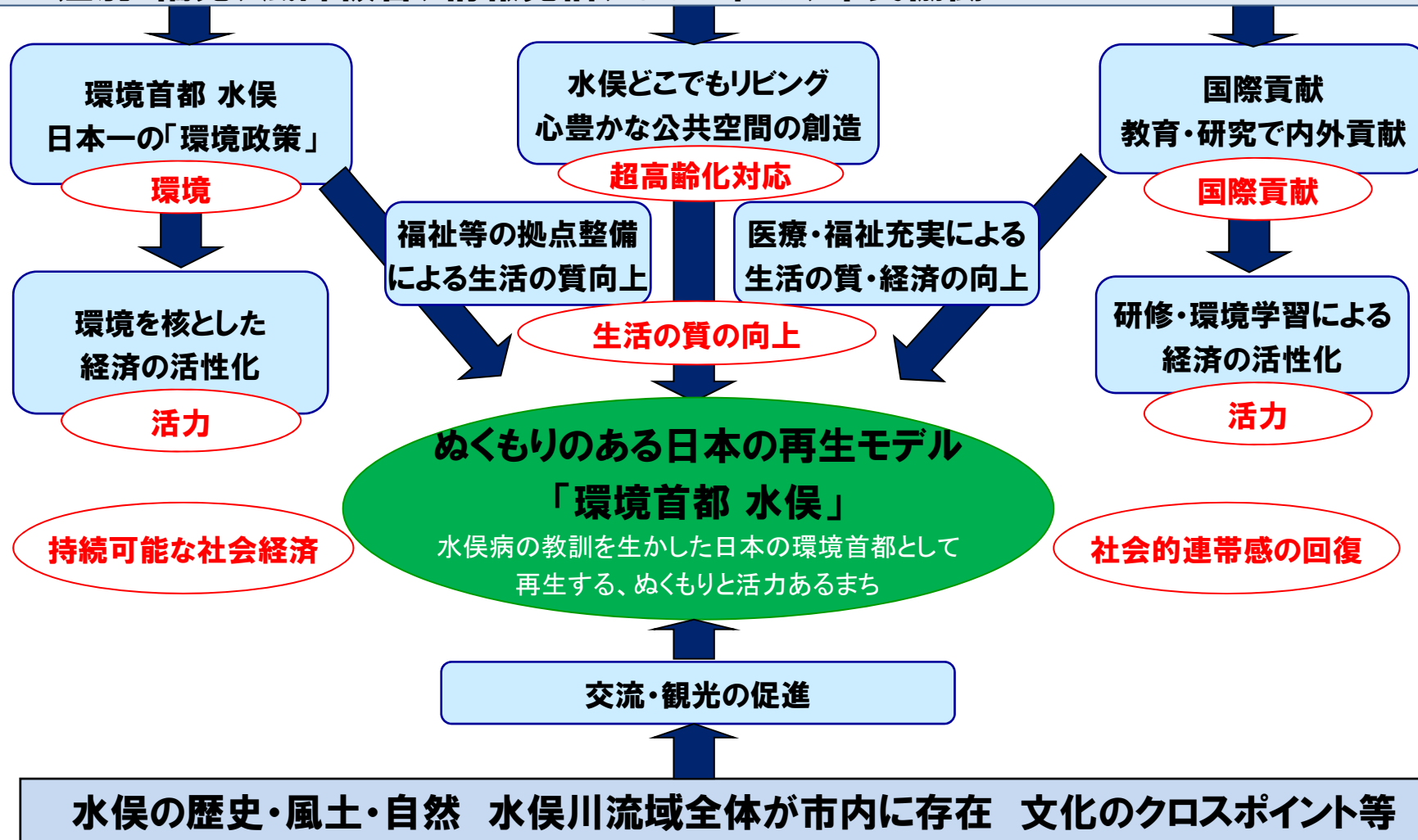
水俣環境未来都市構想のコンセプト



環境未来都市の背景と特性

水俣病の経験と教訓

- 生命・環境を最優先、予防原則、環境と経済の統合、本物・いいもの・こだわり
- 差別・偏見、風評被害、情報発信、もやい直し、市民協働



環境部分に関するプロジェクト

水俣の個性(必然性)

水俣病の教訓

生命と健康を最優先

予防原則

環境と経済の統合

安からう悪からうからの卒業

風評被害・情報発信

もやい直し・市民協働

地理特性 (流域まるごと)

海から山までの多様性

文化のクロスポイント

豊富な水量(水俣の名)

海と山の温泉

幕末以来の 先進的文化

徳富蘇峰・蘆花

日本初の婦人会

早い産業化・高度成長

地元学の発祥

エコタウン、医療・ 福祉産業の集積

高い高齢化率
障がい者比率

戦略軸(プロジェクト発想の起点)

日本一の「環境政策」と活力創造

プロジェクト

地域丸ごと再エネ・省エネ

- 山・川・海・空・地の丸ごと再エネ、省エネで余剰分を市外供給
- 大規模スマートグリッド(約20MW)
- エコハウスなど地域ぐるみ再エネ・省エネと需要創出(絵地図活用)

ゼロカーボン産業団地

- 水俣環境ブランドによる産業集積
- 環境産業の育成

低炭素・高福祉都市・交通

- 山から海の地域特性に応じた低炭素・高福祉都市・交通体系の実現
- 電動モビリティの普及促進
- 「心豊かな公共空間」を中心とした中心市街地活性化

水・大気

- 地域住民による水環境管理
- 水路復活、水にこだわった農業

自然環境・生物多様性

- 流域一体の保全保護
- 地区環境協定による保全保護

ゼロウェイスト

- 市内企業のゼロエミッション化など、リサイクル率100%を目指す。
- 「心豊かな公共空間」と「茶のみ場」

コンセプト

ぬくもりのある日本の再生モデル
「環境首都水俣」

主に「再生」と
「環境首都」

市民協働・新大学(実施体制)、条例(担保措置)、環境金融

心豊かな公共空間部分に関するプロジェクト

水俣の個性(必然性)

水俣病の教訓

生命と健康を最優先

予防原則

環境と経済の統合

安かろう悪かろうからの卒業

風評被害・情報発信

もやい直し・市民協働

地理特性 (流域まるごと)

海から山までの多様性

文化のクロスポイント

豊富な水量(水俣の名)

海と山の温泉

幕末以来の 先進的文化

徳富蘇峰・蘆花

日本初の婦人会

早い産業化・高度成長

地元学の発祥

エコタウン、医療・ 福祉産業の集積

高い高齢化率
障がい者比率

戦略軸(プロジェクト発想の起点)

心豊かな公共空間と「生活感幸」

プロジェクト

誰もがつながりを感じる公共空間の整備と活用(水俣どこでもリビング)

- 公民館を快適で居心地良い空間とし、水俣病被害者や独居高齢者など様々な人が安心して過ごせるようにする。
- 低炭素・高福祉都市・交通
- 総合医療センターを中心に快適な医療環境の整備

超高齢化対応

コンセプト

ぬくもりのある日本の再生モデル
「環境首都水俣」

主に「ぬくもり」と「再生」

洗練された高付加価値空間

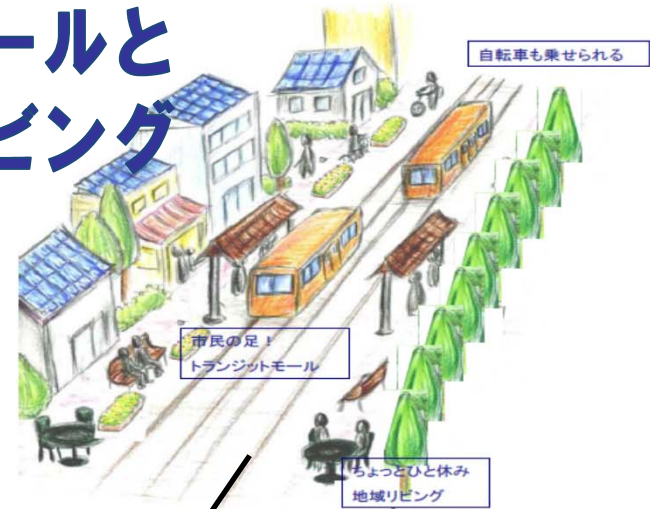
- カフェ、レストラン、商店、鉄道・バス車両等を、それ自体が楽しめる対象となる洗練されたデザインとし、かつ、最高の環境性能とする。
- 洗練された空間において高付加価値商品を提供し、デフレスパイラルからの脱却(例;スイーツ)
- 地元にあるものを活用した「地元学」と「感幸型観光」
- 市民協働による町並み整備

市民協働・新大学(実施体制)、条例(担保措置)、環境金融

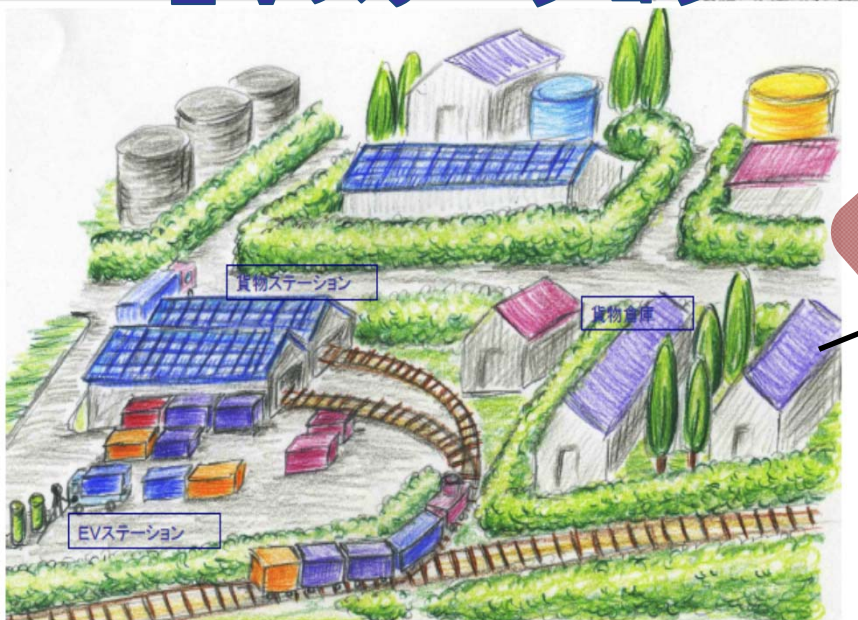
トランジットモールと 水俣どこでもリビング

環境に優しい鉄道の新駅増設や増便を行うとともに、トランジットモール化することで、気軽に使いやすい低炭素の移動手段を確保する。

待合スペースは「水俣どこでもリビング」(心豊かな公共空間)として整備・位置づける。



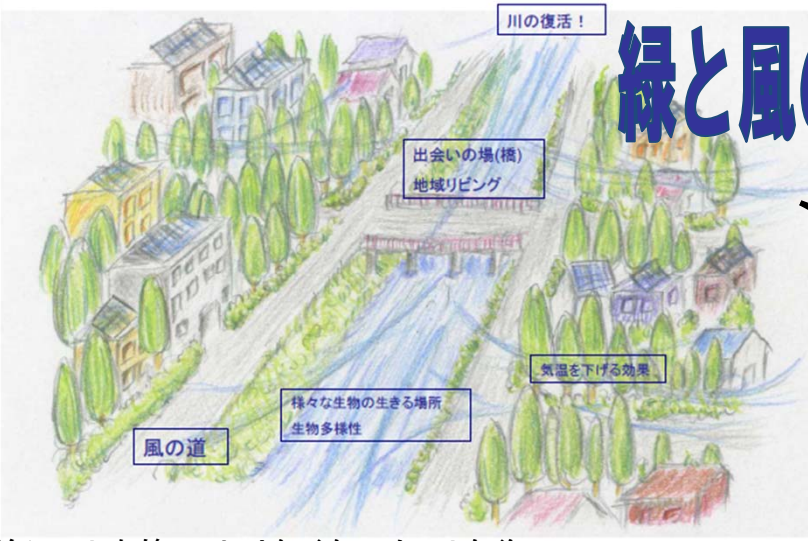
貨物ヤード(引込線復活)、 山野線の復活と EVステーション



廃止された貨物の引込み線や廃止ローカル線の山野線を復活し、低炭素による貨物輸送や通勤通学・通院、観光鉄道として活用する。

EVステーションは、電気自動車、電動バイク、電動カートの充電設備としての役割と鉄道からの乗り継ぎ拠点として位置づける。

緑と風のネットワーク



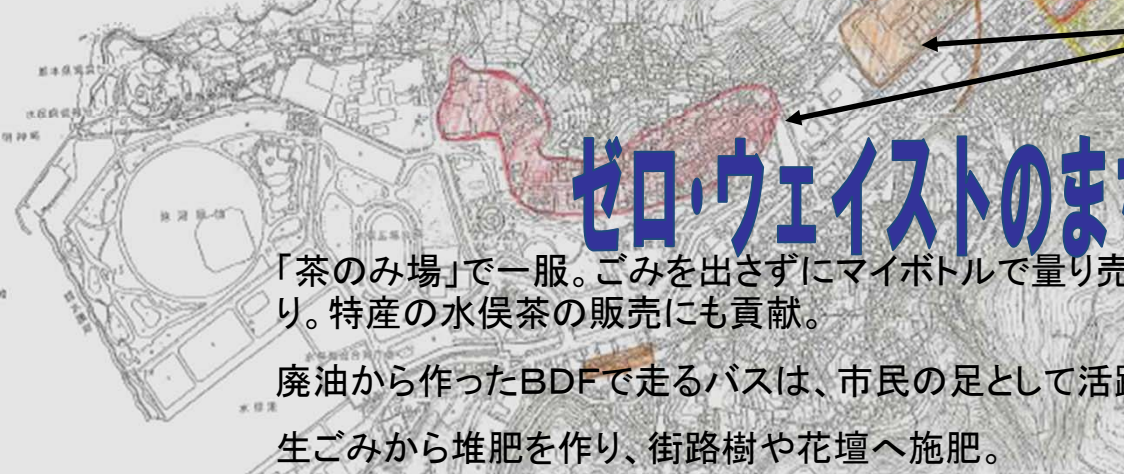
以前河川改修によりなくなった川を復活し、新たな水路として活用する。

水路の復活により、緑豊かな水辺や風の通り道を作ること、気温を下げる効果が期待できる。

また、新たに設置する橋は、「水俣どこでもリビング」(公共空間)として位置づけ、出会いの場を創出する。

環境マイスターやエコショップの推進により、環境に優しい商品の生産販売が促進される。

リサイクルされないびんは、リガラスとして市内道路のカラー舗装に再利用。



ゼロ・ウェイストのまち

「茶のみ場」で一服。ごみを出さずにマイボトルで量り売り。特産の水俣茶の販売にも貢献。

廃油から作ったBDFで走るバスは、市民の足として活躍。

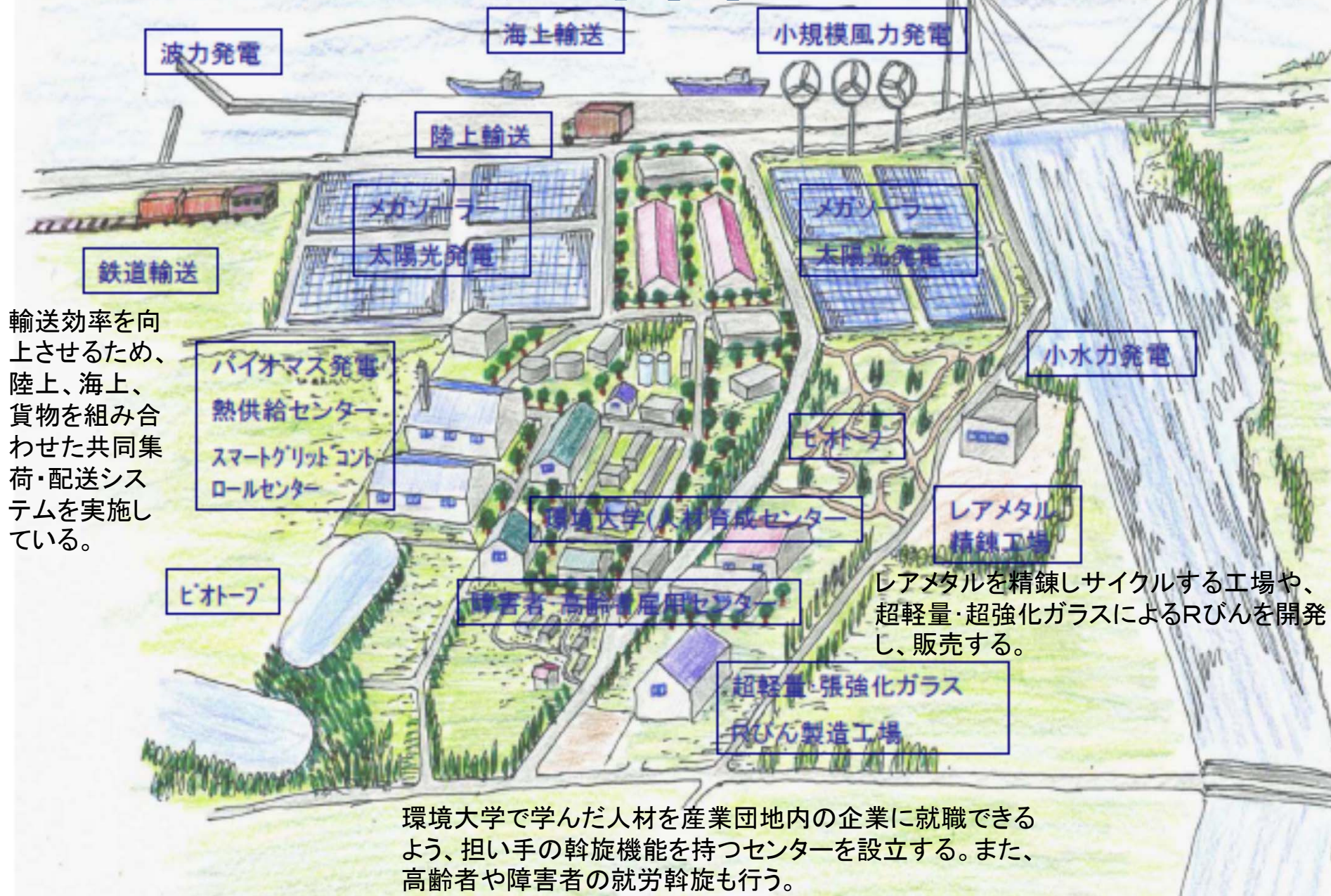
生ごみから堆肥を作り、街路樹や花壇へ施肥。



メガソーラー発電や波力発電、風力発電、バイオマス発電などをスマートグリッド化し、団地へ電力・熱を供給。

ノーカーボン産業団地

森の中の産業団地として、ビオトープや公園を併設し、自然豊かな団地とする。

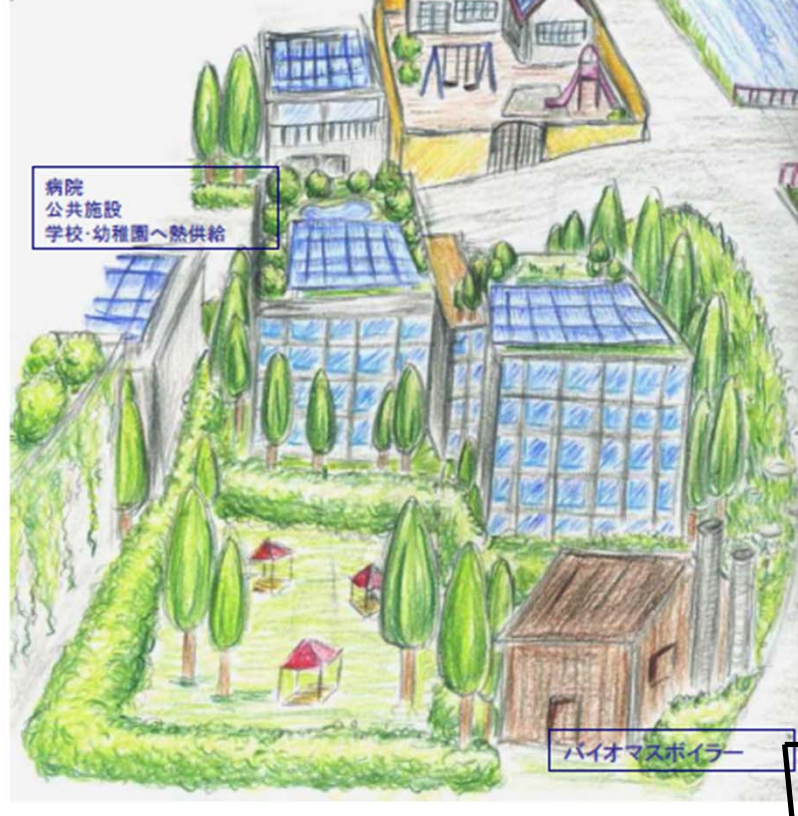


輸送効率を向上させるため、陸上、海上、貨物を組み合わせた共同集荷・配送システムを実施している。

レアメタルを精錬しサイクルする工場や、超軽量・超強化ガラスによるRびんを開発し、販売する。

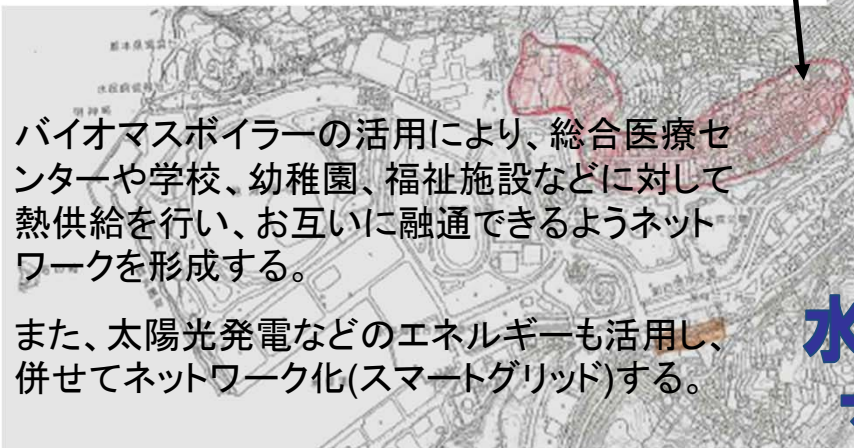
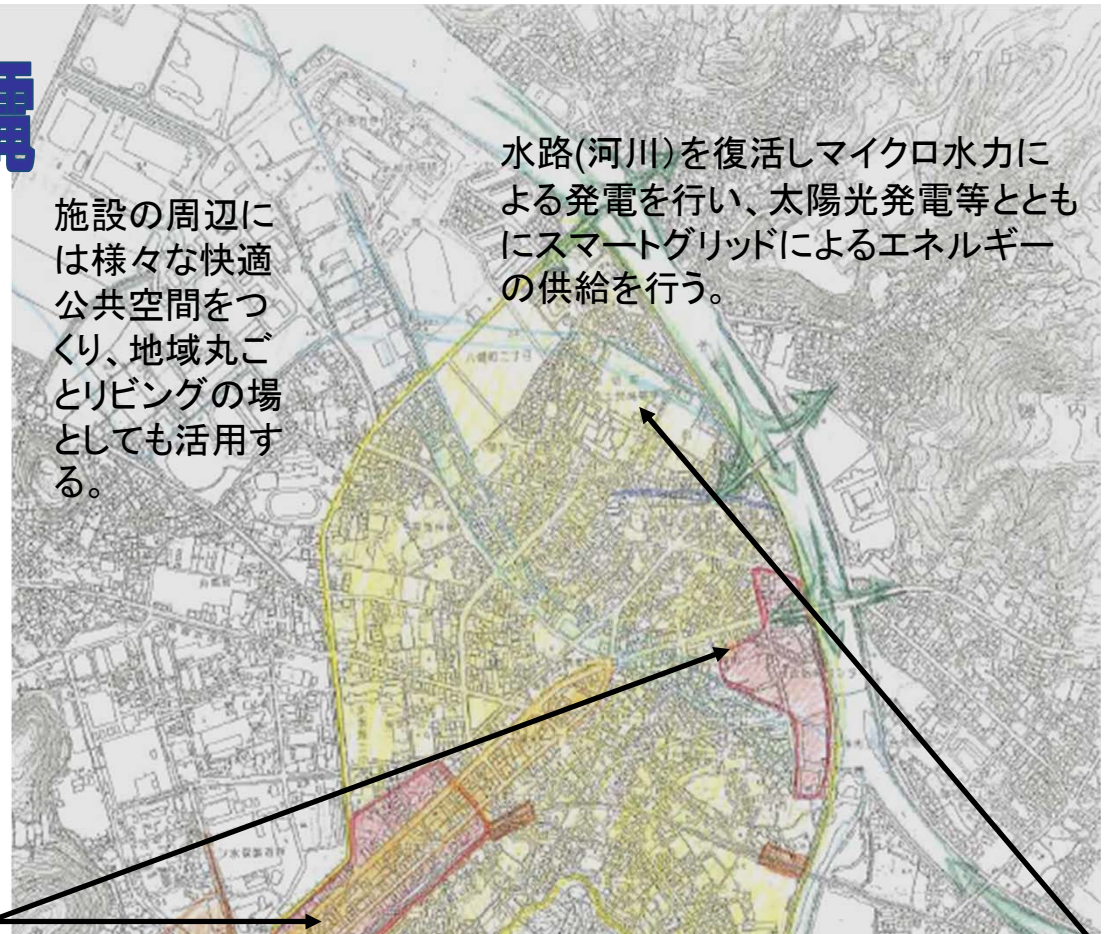
環境大学で学んだ人材を産業団地内の企業に就職できるよう、担い手の斡旋機能を持つセンターを設立する。また、高齢者や障害者の就労斡旋も行う。

熱供給ネットワークとバイオマス発電



施設の周辺には様々な快適公共空間をつくり、地域丸ごとリビングの場としても活用する。

水路(河川)を復活しマイクロ水力による発電を行い、太陽光発電等とともにスマートグリッドによるエネルギーの供給を行う。



水路(河川)の復活とマイクロ水力発電



水俣どこでもリビング

現在の地域リビング事業

地域リビング事業とは
「家の中に一人でいないで、いつでも皆で一緒に」を
モットーにした地域の中のお茶の間づくり、健康づくり

- ・健康の増進、介護認定率の減少、介護保険料の抑制
- ・地域福祉コミュニティの形成、もやい直しの推進
- ・二酸化炭素等の温室効果ガス排出量の削減
- ・地域の防災拠点・避難場所としての整備（自立電源）

活動拠点は地域の幸民館



心豊かな快適
公共空間

- ・バリアフリー化の推進
- ・太陽光発電システム等の導入
- ・一手間かけた洗練された空間、デザイン

居心地を良くする工夫

- ・5Sの徹底
整理、整頓、清潔、清掃、しつけ
- ・祭り、遊び、趣味などの交流イベントの開催
- ・みんなで食べる
→心理的抵抗の軽減、リラックス

水俣どこでもリビング事業

幸民館だけでなく、人が集うところはどこでも、
ぬくもりある居心地良い空間

ぬくもりある居心地良い空間

- ・バリアフリー化の推進
- ・一手間かけた洗練された空間、デザイン
生活の質の向上
- ・水俣基準のぬくもりある安心安全
子どもの安心安全
- ・知恵袋
人々が集まって、知恵を共有する
- ・生活「感幸」ツアー
地域にとどまらず、市全体で交流する



都市・交通の仕組み

- ・便利な公共交通と歩いて暮らせる生活圈
- ・「感幸」鉄道
山野線が復活し、生活感幸ツアーへ
- ・パーソナルモビリティの普及
- ・電動バイク、自転車、電動カート、電気自動車など、
多様なニーズに応じたシェアリングシステムの発達

2050年の地域リビング事業 ～地域丸ごとリビング～

幸民館（ぬくもりある居心地良い空間）が拠点

幸民館の機能

- ・地参地笑プロジェクト
- ・地域が支える健康福祉
- ・地域が育てる子供達
自然と伝承の遊び、知恵、生活文化、知恵、しつけ
→子育て支援
- ・水俣基準の安心安全
子供の安心安全



幸民館ビジネス

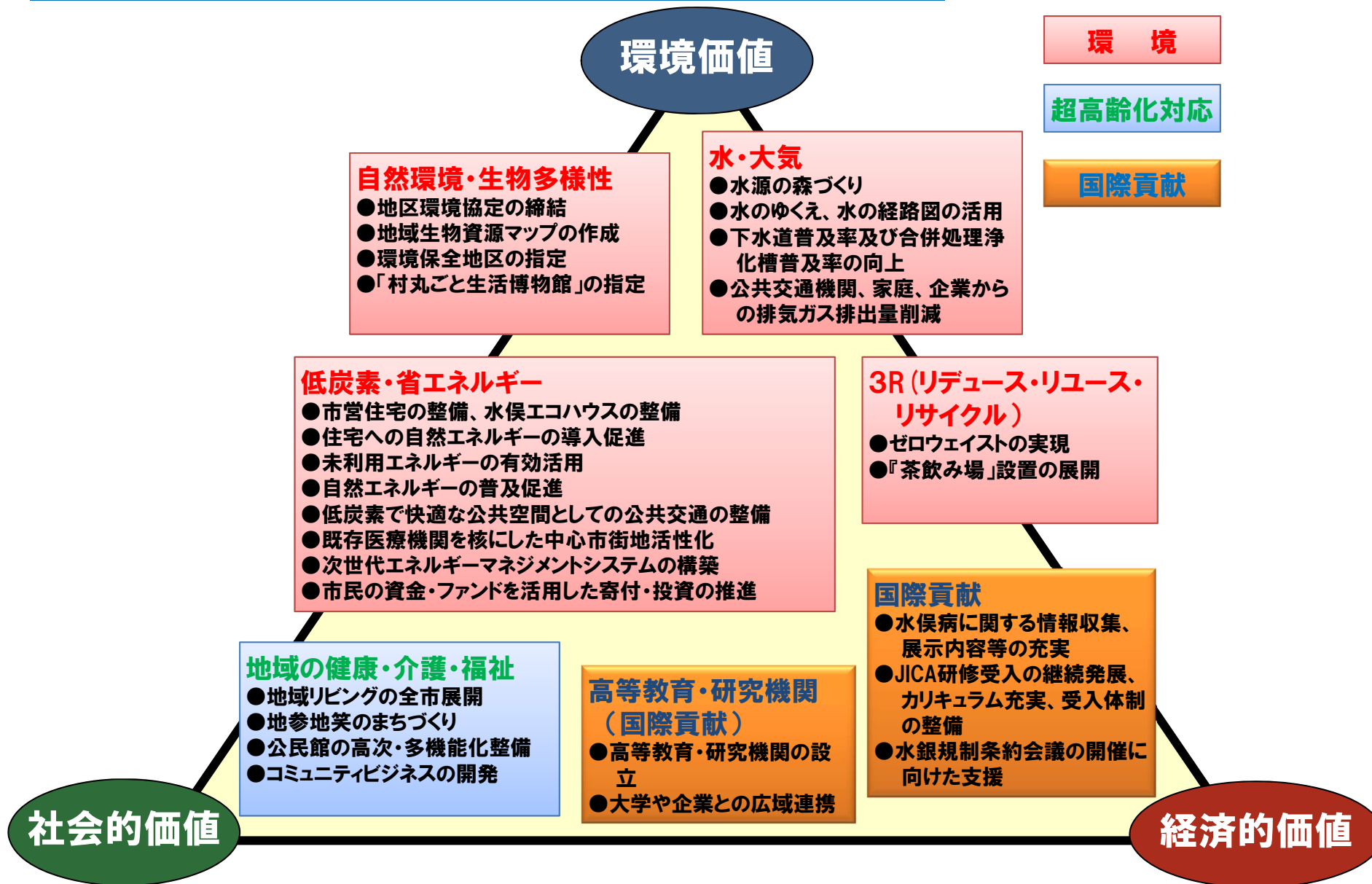
- ・自賛場産レストラン、販売
- ・もったいないボックス
住民同士での不用品のリユース・リサイクル
- ・生活支援グッズレンタルショップ

地域単位から
市全体へ

生活「感幸」ツアー

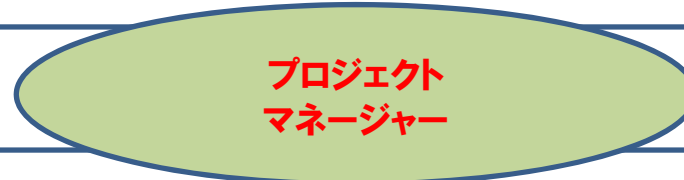
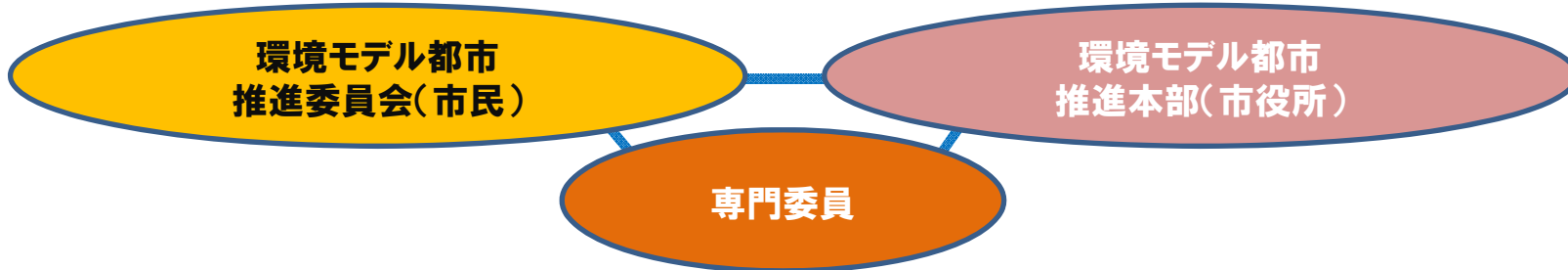
市内外から、魅力ある他地区の
幸民館を訪れる

3つの価値創造と取組内容

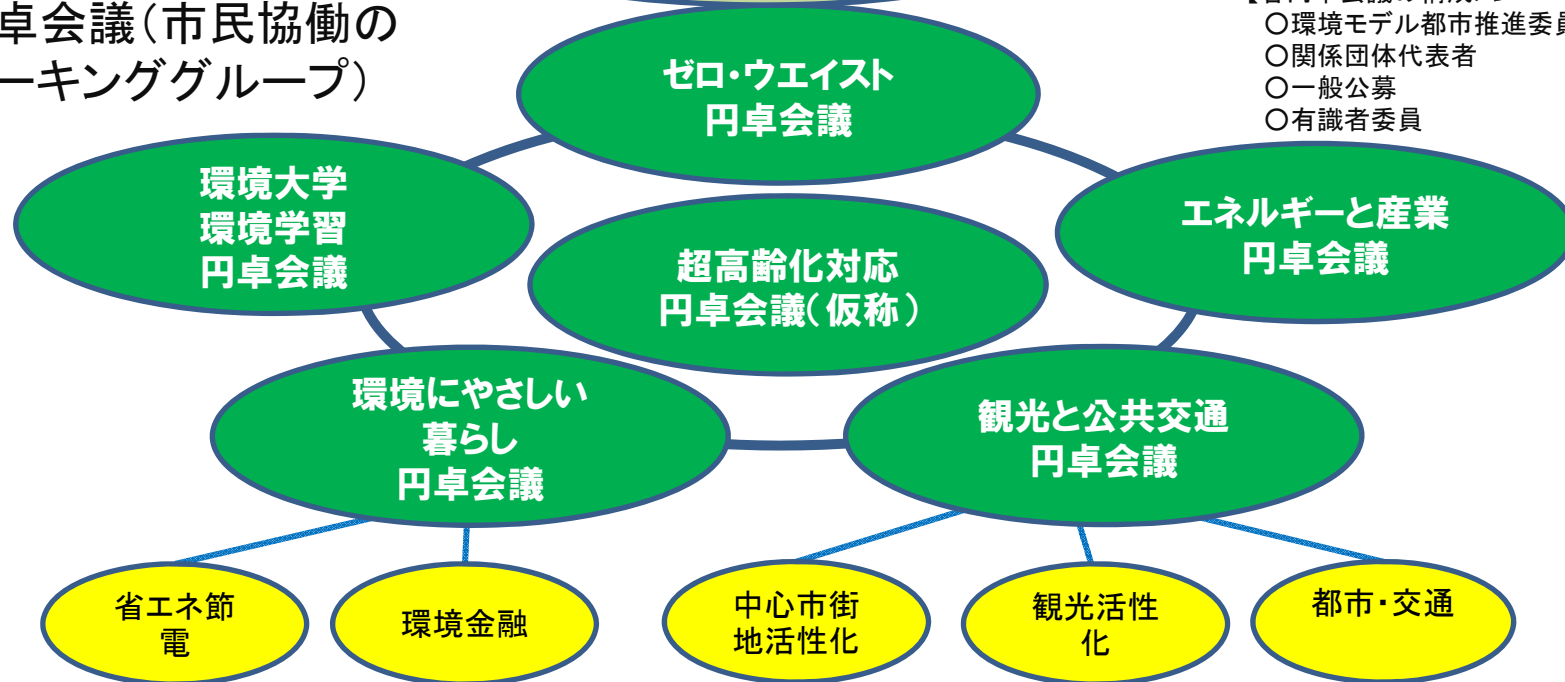


環境未来都市構想事業の実施体制

「環境モデル都市推進委員会・環境モデル都市推進本部・専門委員」合同会議



円卓会議(市民協働のワーキンググループ)



【各円卓会議の構成メンバー】
○環境モデル都市推進委員
○関係団体代表者
○一般公募
○有識者委員

ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言 行動計画



④みんなでつくる

短期目標(1年程度)

- ・ゼロ・ウェイスト宣言ホームページの作成
- ・ゼロ・ウェイスト地域講座の開催
- ・家庭版環境ISOの普及促進
- ・市民参加のごみステーション調査
- ・情報の共有と議論、合意形成の「場」づくり→「ゼロ・ウェイスト円卓会議」の発展
- ・ごみ組成調査
- ・「環境モデル都市フェスタ」をきっかけに、ゼロ・ウェイスト宣言(予定を含む)自治体との現場レベルでの連携を図る。→ゼロ・ウェイスト自治体での持ち回り会議の開催
- ・法制度等に関する国への提言や働きかけ
- ・家庭、学校、事業所等における「ゼロ・ウェイスト宣言」の検討・普及
- ・リサイクル還元金の現状及び問題点について検討

中期目標(3~5年程度)

- ・活動の核となるNPO法人「ゼロ・ウェイスト・センター(仮称)」を設立、資源ごみ持ち込みやリユース・リペアの拠点としても機能させる。
- ・近隣自治体(津奈木町、芦北町)に対する呼びかけ
- ・エコポイントの検討・導入
- ・リサイクル還元金の新たな仕組みについて検討
- ・回収された資源ごみの行方の調査及び公表

長期目標(10年程度)

- ・ゼロ・ウェイスト宣言自治体の全国的組織化